

中等
女子音樂教科書

教師用



榮橋吉共編
內藤俊二

大阪開成館版



籬の菊

犬童球溪

一、まがきの白菊 笑みをふくみ
 庭にみどり
 露には撓めど 霜に傲りて
 人をば教ふる あゝ白菊
 人をば教ふる あゝ白菊
 嗚呼 々々 々々

二、盛りの黄菊は 露を帯びて
 黄金の眞玉を 園にかざる
 藁屋はくつれど 薫溢れて
 またなき樂土か あゝ我が宿
 またなき樂土か あゝ我が宿
 嗚呼 々々 々々

【大意】

一 垣根の白菊が咲きかけて、氣高い露は庭一ぱいに擴がつてゐる。露がおくと重さうに垂れてゐるが、霜が下りても一向平氣だ。かうして外歴に堪へて居る點では我々に何か教へて居るやうだ。あゝ。

二 黄菊の眞盛りだ。露を帯びて花の黄金色が庭をかさつてゐる。家は朽ちかけた藁屋だけれど、菊の薫が溢れてゐる。あゝ我が家は此の世ながらの又となき樂園だ。あゝ。

【語釋】

霜に傲る

霜に打たれていたらめられもせず傲然としてゐる。

愛國

小林文助

一、櫻の咲く國神の御國

世界にほこるうまし海山

けがれを知らで とはにさかゆく日の本
 ああ かくもたかくきよき皇國を守れや。

二、靈妙に秀づる富士のたかね

平和に澄める琵琶のみづうみ

こころはこれよ とはにかはらぬ日の本
 ああ かくもたかくきよき皇國を守れや。

【大意】

一 櫻の咲く國だ。神様の國だ。世界に誇るべき海山の美しい國だ。外敵に犯された事のない國、永久に榮えて行く日本だ。あゝこんなに高く潔い皇國日本を守れよ。

二 神々しく美しく秀でてゐる富士の高山、又湖面も靜に平和に澄んでゐる琵琶湖、皇國日本の心はこれだ。高潔清澄だ。永久に揺ぎなき日本、高くも尊い皇國を守れよ。

【語釋】

うまし

美しい。よい。

とはに

永久に。

籬の菊

Moderato.

Aug. Chapuis.

籬
の
菊

mf

1. マケガキカノシラギクエニミヲフクテミ
2. さかかかりののまきたまはをそゆのにおかぎてる

1. マケガキカノシラギクエニミヲフクテミ
2. さかかかりののまきたまはをそゆのにおかぎてる

1. マケガキカノシラギクエニミヲフクテミ
2. さかかかりののまきたまはをそゆのにおかぎてる

mf

p

ア - シ モ ニ オ ゴ - リ テ
あ - か を り あ ふ - れ て

p

ツ ユ ニ ハ タ - ツ メ ド シ モ ニ オ ゴ リ テ
わ ら や は く - つ れ ど か を り あ ふ れ て

p

ツ ユ ニ ハ タ - ツ メ ド シ モ ニ - オ ゴ - リ テ
わ ら や は く - つ れ ど か を り - あ ふ - れ て

p

六八 (生徒用五八・五九)

mf

ヒ ト ヲ バ ヲ シ フ ル ア ア シ ラ ギ ク -
ま た な き ら く ど か あ あ わ が や ど -

mf

ヒ ト ヲ バ ヲ シ フ ル ア ア シ ラ ギ ク -
ま た な - き ら - く ど - か あ あ わ が や ど -

mf

ヒ ト ヲ バ ヲ シ フ ル ア ア シ ラ ギ ク -
ま た な き ら く ど か あ あ わ が や ど -

mf

pp

ア - ア - ア -
あ - あ - あ -

pp

ヒ ト ヲ バ ヲ シ フ ル ア ア シ ラ ギ ク -
ま た な き ら く ど か あ あ わ が や ど -

pp

ヒ ト ヲ バ ヲ シ フ ル ア ア シ ラ - ギ ク -
ま た な き ら く ど か あ あ わ が - や ど -

pp

籬
の
菊

六九 (生徒用五九・六〇)

初霜

相馬御風

一、庭の面ましろに霜はふりて 垣根の山茶花散るよほろろ
 朝風寒けく馬を曳きて 野良へといでゆく村の人の
 唄聲一しほ互えてきこゆ。

二、初霜ふみつつひとりおもふ わかれて久しき友のひとり
 かの君送りし朝もかくぞ 初霜ましろく道に置きて

三、大空さやかにすみてあれど 冬待つさびしさ今朝は深し
 ひとむれすぎゆく渡り鳥のはるけき行方をながめ居れば
 いつしかわが目に涙うかぶ。

【大意】

一 庭の面には真白く霜が下りてゐる。垣根の山茶花がほろ／＼散つてゐる。朝風が寒い。馬を曳いて野良へ出て行く村人がある。何か唄つて行く聲が朝の寒空に一層浮えて聞えてゐる。

二 初霜をふみながら想出した。今は別後もう久しい友の一人だが、あの友を見送つた朝も、こんなに初霜が真白く道に置いて、吹く風が身にしみて非常に寒かつた。

三 大空が清明に澄んで居るが、やがて寒い冬が来ると思ふと、寂しさが一層深い。見ると空をとんで行く一群の渡り鳥がある。鳥の行方を遠く眺めてゐると、いつしか寂しくなつて涙ぐまれるのである。

【語釋】

野良 野のこと。「良」は接尾語。

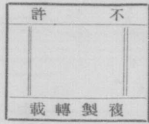
The musical score is written for voice and piano. It consists of two systems of staves. The first system has four vocal staves (Soprano, Alto, Tenor, Bass) and a piano accompaniment. The second system has four vocal staves and a piano accompaniment. The lyrics are written below the vocal staves. The score includes dynamic markings such as *p*, *pp*, and *ppp*. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 4/4.

籬の菊

七〇(生徒用六〇・六一)

K231J

昭和八年六月廿五日印刷
昭和八年七月一日發行



發賣所

中等女子音樂教科書教師用卷之四
定價金壹圓五拾錢

編纂者 內藤 俊二

印刷者兼
者 三木 佐助

發行所
會社名 大阪、開成館
振替口座大阪七九番

大阪市東區北久寶寺町心齋橋筋角

三木 樂器店

振替口座大阪七九番

東京市日本橋區吳服橋二丁目五

林平 書店

振替口座東京三七一番